平成２４年度

河川、道路整備事業の概要

平成２４年４月

国土交通省　東北地方整備局

酒田河川国道事務所

問合せ先
国土交通省　酒田河川国道事務所
〒998-0011 酒田市上安町一丁目 2-1
Tel 0234-27-3331（代）

副所長（河川担当）　阿部　富雄　内線 204
副所長（道路担当）　伊藤　啓一　内線 205

１．平成２４年度事業概要

１）概　　要

酒田河川国道事務所は、大正６年最上川改修土地収用事務所として発足し、以来幾度かの組織の変遷を経て、昭和３２年に酒田工事事務所、平成１５年度から酒田河川国道事務所となり、庄内地域の“二つの川と三つの道”の改修、改築事業とその管理を行っています。

現在担当する区間として、河川は最上川下流及び赤川の本川２河川と京田川を含め５支川で74.7km、道路は日本海沿岸東北自動車道の12kmと国道７号･47号及び112号の３路線で延長150.2kmについて、改修・改築・交通安全等事業を推進します。

本年度の総工事関係費（業務取扱費を除く）は約　　６６億円です。

２）河川事業

近年の局地的な集中豪雨や地震などに起因して頻発する風水害・震災から被害を最小限とする緊急的な対策が必要とされています。このため、当事務所においても住民の円滑かつ迅速な避難を促し被害を最小限にするための支援を行うとともに、山形県と連携し流域全体の安全度の確保、向上を図っていきます。

本年度の河川事業は、自然豊かな河川環境を有する最上川と赤川の河川特性を活かし、地域と連携した事業の推進を図り、計画達成に向けて効率的・計画的に河川事業を行います。

主な河川事業として、最上川下流は、支川京田川における流下能力向上を図るため、関連する国道112号出羽大橋の４車線化工事に伴う坂野辺地区の出羽大橋架替を山形県との附帯協定に基づき実施し完成を図るとともに、東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模地震等への備えとして、九木原地区の堤防の耐震・液状化対策を新規に実施します。

また、河川にまつわる歴史・文化を活用した地域活性化を目的とした活動を支援する、清川地区かわまちづくり事業を推進します。

赤川は、中流部における洪水流下能力の向上を図るため、湯野沢地区等の河道掘削を推進します。また、地域と連携し赤川らしい豊かな河川環境の復元・創出を図るため、赤川の自然再生事業を推進します。

赤川については「赤川水系河川整備計画」の策定を目指します。

3）道路事業

地域間を交流・連携し庄内地域の活性化に資する高速交通ネットワークの整備を推進するとともに、庄内地域の安全で快適な道路交通確保を目指し、交通事故対策、交通渋滞対策を行います。

直轄高速事業の日本海沿岸東北自動車道では、酒田みなと～遊佐間においては、調査設計、用地買収を推進するとともに、今年度内に改良工事に着手します。

国道 47 号では、新庄酒田間の地域高規格道路の一部である余目酒田道路について、早期の供用を目指し、用地買収、改良工事を推進します。

また、鶴岡市内の交通混雑緩和、環状道路の一部を形成する鶴岡北改良については舗装工事を推進し、平成２４年度内の全線４車線供用を目指します。

交通安全事業は、国道７号山形７号交差点改良等（十五軒交差点改良事業、蟹沢歩道整備事業）の平成２４年度完成を目指すとともに、国道７号山形７号交差点改良等（広野地区事故対策事業、大広交差点改良事業）を推進します。今年度より、国道７号山形 7 号交差点改良等（女鹿視距改良事業、京田交差点改良事業)、および国道１１２号山形１１２号交差点改良等（東原町地区交差点改良事業）に着手します。

２．平成２４年度　酒田河川国道事務所予算概要

（単位：百万円）

	平成24年度 当初工事関係費①	平成23年度 当初工事関係費②	対前年度 増減費	①/② 伸び率（%）
河川事業	1,123	773	351	145%
道路事業	5,447	17,160	△ 11,713	32%
合　計	6,570	17,933	△ 11,363	37%

注）工事関係費は業務取扱費を除く金額で記載。

３．河川事業

１）河川改修事業（工事関係費　Ｃ＝９５５百万円）

最上川下流において、京田川の洪水流下能力の向上を図るために実施している京田川引堤事業に伴い、関連する国道 112 号出羽大橋の４車線化工事について、山形県との附帯協定に基づき、上部工橋面工（山形県施工）及び河道掘削・護岸工事を実施し完成を図るとともに、東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模地震等への備えとして、九木原地区の堤防の耐震・液状化対策を新規に実施します。

赤川において、中流部の洪水流下能力の向上を図るため河道掘削全体計画のうち、湯野沢地区等の河道掘削を推進します。

河　川　名	名　　称　　付	全　体　計　画	Ｈ２４事業概要
最上川下流 (京田川)	出羽大橋架替	橋梁架替 L=128.8m	上部工橋面工（山形県施工）及び河道掘削・護岸工事等を実施し完成を図る。
最上川下流	堤防の耐震・液状化対策	耐震・液状化対策 L=2.2km	九木原地区の堤防の耐震・液状化対策を新規に実施する。
赤　　川	河道掘削	掘削延長Ｌ≒10.5 ㎞ 掘削土量 V≒2,050 千 m^3	湯野沢地区等の河道掘削を推進する。

２）総合水系環境整備事業（工事関係費　Ｃ＝１６８百万円）

最上川下流において、地域と河川が融合する空間整備による地域活性化対策を支援する、清川地区かわまちづくり事業を推進します。

赤川において、地域と連携し赤川らしい豊かな河川環境の復元・創出を図るため、赤川の自然再生事業を推進します。

河　　川　　名	名　　称	全　体　計　画	Ｈ２４事業概要
最上川下流	清川地区 かわまちづくり事業	管理用通路　１式 坂路　１式　看板　１式	管理用通路　１式 坂路　１式　を実施する。
赤　　川	赤川自然再生事業	L≒　13km	淵の再生（水制工）１箇所を実施する。

４．道路事業

1）日本海沿岸東北自動車道　直轄高速事業（工事関係費　Ｃ＝１，１００百万円）

高速交通ネットワークの整備を図り、地域間を交流・連携し庄内地域の活性化を図るため、引き続き日本海沿岸東北自動車道の整備を推進します。

路　線　名	事業箇所名	計　画		完成・供用目標年度	Ｈ２４事業概要
		延　長	車線数(幅員)		
日本海沿岸東北自動車道	酒田みなと～遊佐	12km	2 (12.0)	H28 以降	起点（酒田みなとＩＣ）から順次、調査設計及び用地買収を推進し、工事着手を図る。

2）改築関係事業　（工事関係費　C＝３，３００百万円）

国道４７号、１１２号の直轄管理区間において、安全・安心な道路交通の確保、快適で円滑な道路交通の確保を図るため、引き続き、余目酒田道路、鶴岡北改良の早期供用に向け事業推進を図ります。

路線名	事業箇所名	計　画		完成・供用目標年度	Ｈ２４事業概要
		延　長	車線数(幅員)		
国道４７号	余目酒田道路	12.7km	4 (22.0m)	H26 部分 H28 以降	酒田市街地部の用地買収を促進する。 酒田市側の改良工事を推進する。
国道 112 号	鶴岡北改良	2.0km	4 (28.0m)	H24	舗装工事を推進し、Ｈ２４完成４車線供用を目指す。

3）交通安全事業

交通事故の防止と交通の円滑化・快適化を図るため、交通安全事業として、国道７号山形７号交差点改良等（十五軒交差点改良事業、蟹沢歩道整備事業）の平成２４年度完成を目指すとともに、国道７号山形７号交差点改良等（広野地区事故対策事業、大広交差点改良事業）を推進します。今年度より、国道７号山形７号交差点改良等（女鹿視距改良事業、京田交差点改良事業）、および国道１１２号山形１１２号交差点改良等（東原町地区交差点改良事業）に着手します。

河川関係主要事業　河川の流下能力を向上させる事業

京田川引堤工事

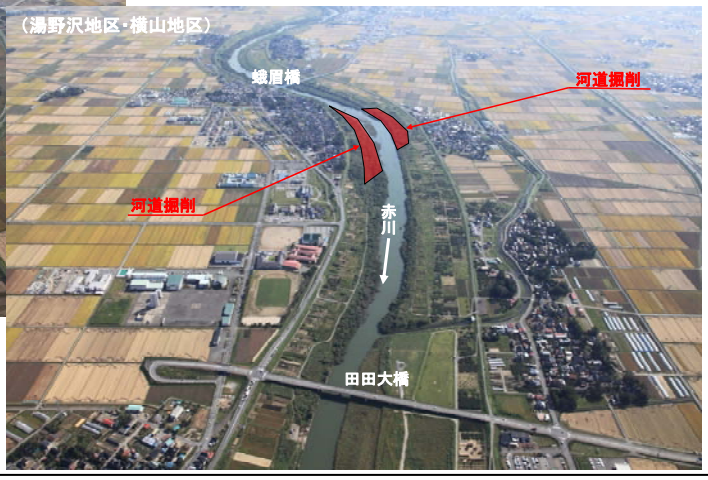
概成している最上川支川京田川の引堤事業の内、残されている山形県施工の国道112号出羽大橋の4車線化工事に伴う京田川部出羽大橋架替を、山形県との附帯協定に基づき上部工橋面工（山形県施工）及び河道掘削・護岸工事を実施し完成を図ります。



赤川河道掘削工事

赤川中流部の洪水流下能力の向上を図るため河道掘削全体計画のうち、湯野沢地区、横山地区、対馬地区の河道掘削を推進します。





河川関係主要事業　自然・歴史・文化を活用し地域活性化を支援する事業

清川地区かわまちづくり事業

川にまつわる歴史・文化が色濃く残る「まち」と、今なお利活用されている「かわ」とが融合する空間を整備することで、地域活性を支援します。

親水公園（町整備）



清河八郎神社



「松尾芭蕉」立像と句碑





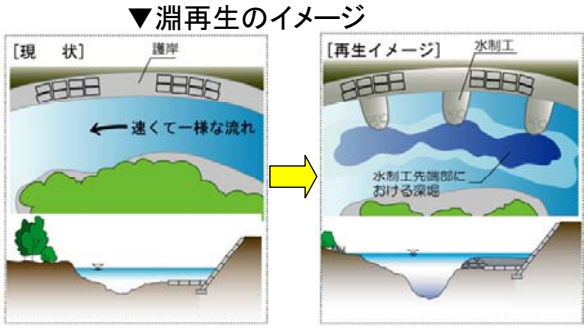
河川関係主要事業　赤川本来の自然を再生する事業

赤川自然再生事業

赤川の鶴岡市東荒地区において水制工の設置を行い、多様な流れの形成により様々な生物が生息できる環境の保全・創出（淵の再生）を進めます。



▼淵再生のイメージ



・水制工の設置により、先端部に発生する洗掘作用を活用し、淵をはじめとする多様な流れを創出する。

道路関係主要事業　広域的な交流・連携を支援し、庄内地域の活性化に資する事業

直轄高速事業　日本海沿岸東北自動車道（酒田みなと～遊佐）

起点（酒田みなとＩＣ）から順次、調査設計及び用地買収を推進し、工事着手を図ります。



▲酒田みなとICから遊佐方向を望む

地域高規格道路　国道４７号　余目酒田道路

酒田市街地部の用地買収を推進するとともに、酒田市大町地区周辺の改良工事を推進します。

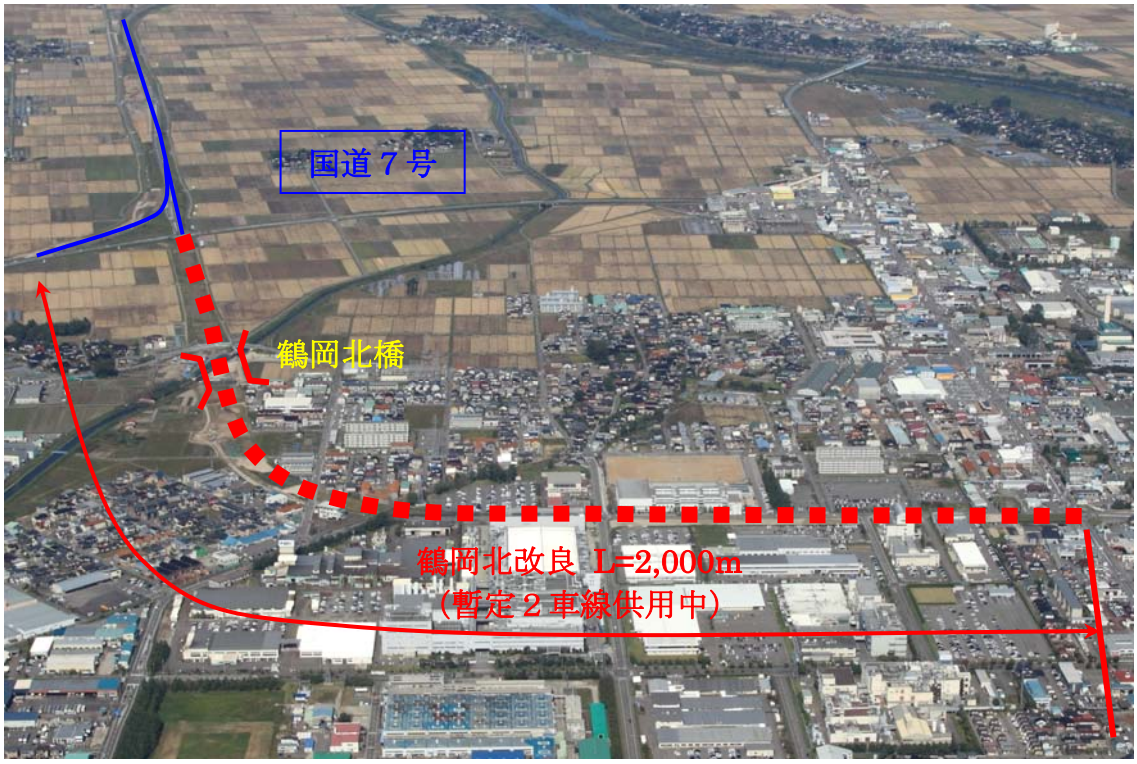


▲整備が進む酒田市大町地区付近

道路関係主要事業　庄内地域の快適で円滑な道路交通を確保するための事業

国道１１２号 鶴岡北改良

宝田地区の舗装工事を推進し、平成２４年度の全線４車線の完成を目指します。



▲整備が進む鶴岡北改良